

② 一次判定ソフトの構造

2021年3月

SEO財団 福祉サービス評価機構
保健福祉部門 統括理事
奥住 浩代

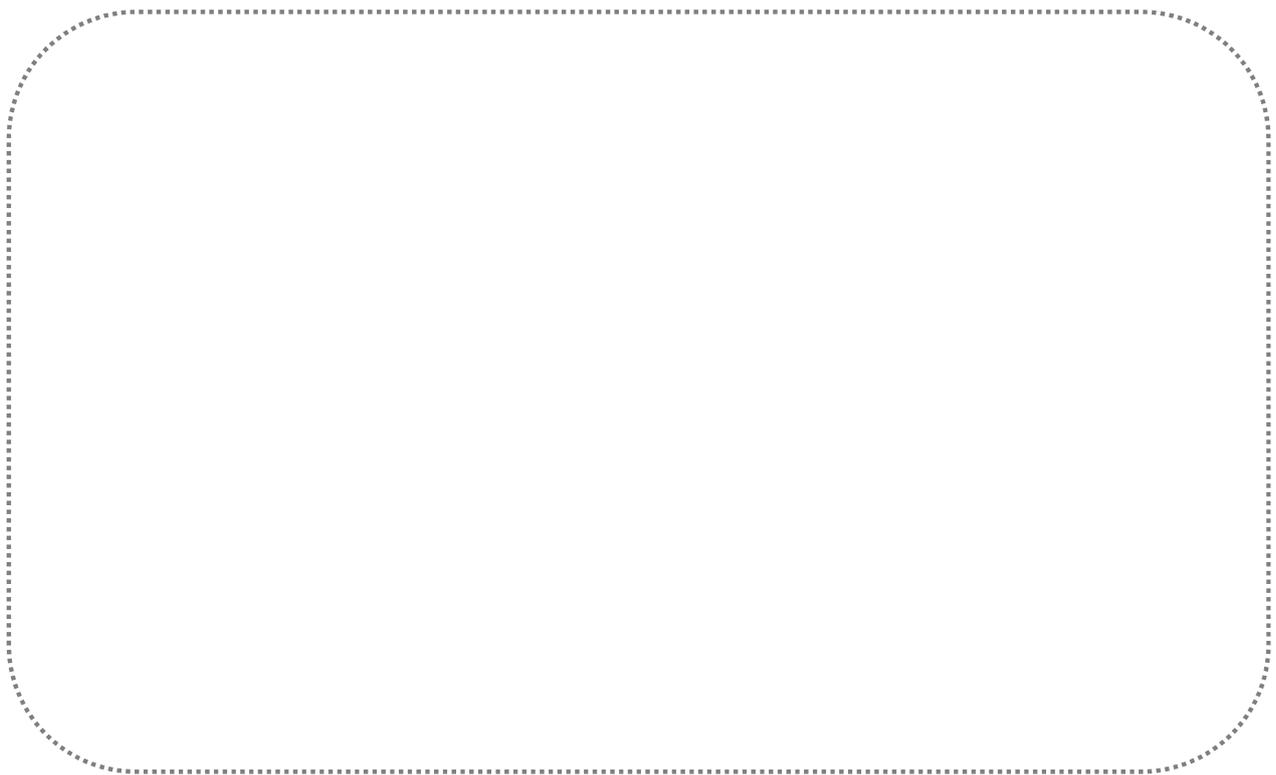
能力向上研修会のカリキュラム

- ① **講義** 能力向上研修のゴール
 - 目指すべきゴール
 - 適正化プロセス記録シートの確認
 - イントロダクション
- ② **講義** **演習** 一次判定ソフトの構造
 - 一次判定ソフトのロジック
 - 手計算による基準時間の算出
- ③ **講義** 介護認定審査会の手順とポイント
 - 認定調査と審査会の関係性
 - 審査会における特記事項の役割
- ④ **講義** 認定調査の基本的な考え方
 - 3つの評価軸の考え方
 - 基本調査の選択における留意点
 - 基本調査の選択の正しい考え方
 - 初任者向けツールの活用
- ⑤ **演習** 審査会委員の立場から検討する特記事項の書き方
 - 特記事項の内容検討
- ⑥ **講義** **演習** 認定調査の適正化プロセス
 - 適正化に向けた取組方法の例
 - 課題整理、適正化プランニング
- ⑦ **講義** **演習** 業務分析データの解釈
 - 業務分析データの読み方
 - テータ例の解釈

一次判定ソフト 樹形モデルを習得する意義について

- 認定調査によるチェックが基準時間に影響していく構造を理解し、定義に基づく正確な調査を行うことの重要性を改めて認識いただく。
 - 審査会資料の読み方を習得する
-

MEMO



1 要介護認定における一次判定ソフトの役割

介護認定審査会資料

取扱注意 介護認定審査会資料

介護認定番号: 00001 No. 1

被介護者区分: 第1号被介護者 年齢: 86歳 性別: 男 現在の状況: 在宅 (施設利用なし)

申請区分: 新規申請 前回要介護度: なし 介護認定有効期間: 月間

作成: 平成26年12月16日
申請: 平成26年12月15日
調査: 平成26年12月5日
審査: 平成26年12月22日

1. 一次判定表

一次判定結果: 要介護1
要介護認定等基準時間: 40.8分

歩行	支那	介介	介介	介介	介介
1	2	1	2	3	4
3.4	2.0	2.0	10.9	8.2	8.1

警告コード:

2. 中間評価項目得点

第1群	第2群	第3群	第4群	第5群
82.1	100.0	100.0	92.6	48.4

障害高齢者自立度: J2
認知症高齢者自立度: I

3. 身体機能・状態の安定性の評価結果

認知症高齢者の日常生活自立度: I
認定調査結果: B
認知症自立度II以上の蓋然性: B 1. 9%
状態の安定性: 安定
給付区分: 介護給付

4. 現在のサービス利用状況(なし)

2. 身体機能・認知機能

1. 歩行機能 (起立動作)

1. 歩行 (二歩) -- あり
2. 歩行 (一歩) -- あり
3. 歩行 (歩-歩) -- あり
4. 歩行 (歩-歩) -- あり
5. 歩行 (歩-歩) -- あり
6. 歩行 (歩-歩) -- あり
7. 歩行 (歩-歩) -- あり
8. 歩行 (歩-歩) -- あり
9. 歩行 (歩-歩) -- あり
10. 歩行 (歩-歩) -- あり
11. 歩行 (歩-歩) -- あり
12. 歩行 (歩-歩) -- あり
13. 歩行 (歩-歩) -- あり
14. 歩行 (歩-歩) -- あり
15. 歩行 (歩-歩) -- あり

2. 身体機能 (起立動作)

1. 起立 (二歩) -- あり
2. 起立 (一歩) -- あり
3. 起立 (歩-歩) -- あり
4. 起立 (歩-歩) -- あり
5. 起立 (歩-歩) -- あり
6. 起立 (歩-歩) -- あり
7. 起立 (歩-歩) -- あり
8. 起立 (歩-歩) -- あり
9. 起立 (歩-歩) -- あり
10. 起立 (歩-歩) -- あり
11. 起立 (歩-歩) -- あり
12. 起立 (歩-歩) -- あり
13. 起立 (歩-歩) -- あり
14. 起立 (歩-歩) -- あり
15. 起立 (歩-歩) -- あり

3. 認知機能

1. 認知機能 (起立動作) -- あり
2. 認知機能 (起立動作) -- あり
3. 認知機能 (起立動作) -- あり
4. 認知機能 (起立動作) -- あり
5. 認知機能 (起立動作) -- あり
6. 認知機能 (起立動作) -- あり
7. 認知機能 (起立動作) -- あり
8. 認知機能 (起立動作) -- あり
9. 認知機能 (起立動作) -- あり
10. 認知機能 (起立動作) -- あり
11. 認知機能 (起立動作) -- あり
12. 認知機能 (起立動作) -- あり
13. 認知機能 (起立動作) -- あり
14. 認知機能 (起立動作) -- あり
15. 認知機能 (起立動作) -- あり

4. 状態の安定性

1. 状態の安定性 (起立動作) -- あり
2. 状態の安定性 (起立動作) -- あり
3. 状態の安定性 (起立動作) -- あり
4. 状態の安定性 (起立動作) -- あり
5. 状態の安定性 (起立動作) -- あり
6. 状態の安定性 (起立動作) -- あり
7. 状態の安定性 (起立動作) -- あり
8. 状態の安定性 (起立動作) -- あり
9. 状態の安定性 (起立動作) -- あり
10. 状態の安定性 (起立動作) -- あり
11. 状態の安定性 (起立動作) -- あり
12. 状態の安定性 (起立動作) -- あり
13. 状態の安定性 (起立動作) -- あり
14. 状態の安定性 (起立動作) -- あり
15. 状態の安定性 (起立動作) -- あり

5. 社会生活への適応

1. 社会生活への適応 (起立動作) -- あり
2. 社会生活への適応 (起立動作) -- あり
3. 社会生活への適応 (起立動作) -- あり
4. 社会生活への適応 (起立動作) -- あり
5. 社会生活への適応 (起立動作) -- あり
6. 社会生活への適応 (起立動作) -- あり
7. 社会生活への適応 (起立動作) -- あり
8. 社会生活への適応 (起立動作) -- あり
9. 社会生活への適応 (起立動作) -- あり
10. 社会生活への適応 (起立動作) -- あり
11. 社会生活への適応 (起立動作) -- あり
12. 社会生活への適応 (起立動作) -- あり
13. 社会生活への適応 (起立動作) -- あり
14. 社会生活への適応 (起立動作) -- あり
15. 社会生活への適応 (起立動作) -- あり

「要介護認定」＝「要介護度を定める」とは？

- 介護保険制度においては、被保険者一人ひとりに、「必要となる介護の量」(＝「介護の手間」の総量)に応じた保険給付を行う必要がある

「要介護認定」

||

**どのくらいの「介護の手間」が必要となるか？
を定量的な指標で示す**

||

**必要な介護を提供するのに必要な時間
「介護の時間」を測る**

要介護度は、「要介護認定等基準時間」で決まる

- 「介護の時間」＝「要介護認定等基準時間」
- 「要介護認定等基準時間」を基準時間に基づき6段階に分類したものが要介護度(要支援2は状態像で分類)
- 厳密には、要介護度の定義は「要介護認定等基準時間」のみであり、定性的な定義は存在しない。

要介護認定等基準時間	要介護度
25分未満	非該当
25分以上32分未満	要支援1
32分以上50分未満	要支援2／要介護1
50分以上70分未満	要介護2
70分以上90分未満	要介護3
90分以上110分未満	要介護4
110分以上	要介護5

「介護の時間」をどのように測るか？

- 個々の申請者の「介護の時間」を実際に測定することは難しい。
- 申請者の「心身の状態」や「介助の方法」などは、観察や聞き取りで客観的に把握することができる。



「心身の状態」や「介助の方法」と「介護の時間」の関係を明らかにすれば、観察や聞き取りによる調査で「介護の時間」を推計することができる。

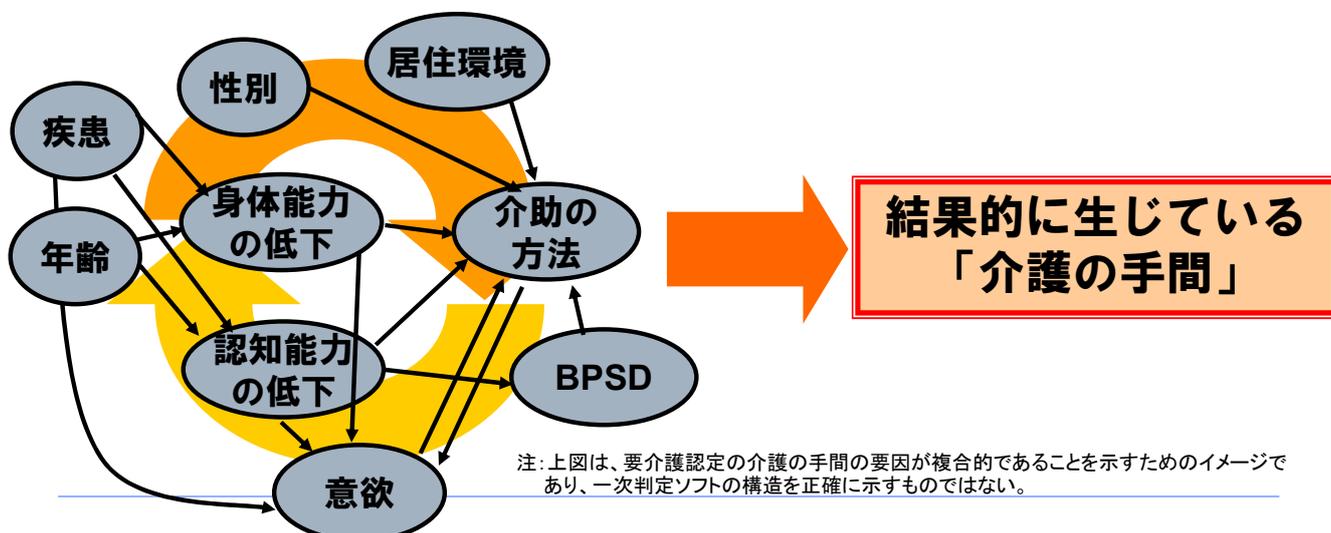
「心身の状態」や「介助の方法」から
「介護の時間」を推計するソフト

||

一次判定ソフト

「ものさし」は「介護の手間」

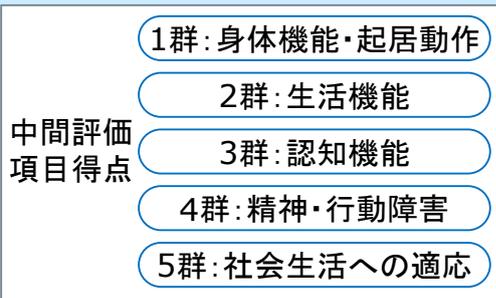
- 要介護認定は、「心身の重篤さ」や「能力」ではなく、「介護の手間(時間)」をものさしとした評価指標。
- 「介護の手間」は様々な心身及び生活上の影響因子(環境なども含む)の組み合わせから、結果的に生じているもの。
- 介護の手間に与える因子は数多くあることから、それらすべてを網羅し、その組み合わせを人間の目だけで評価することは困難。様々な要因のうち、介護の手間(時間)に強い影響のある項目を抽出したのが「基本調査項目(74項目)」。



一次判定ソフト ＝「心身の状態」から「介護の時間」を推計

心身の状態:「状態像」

介護の時間:「要介護認定等基準時間」

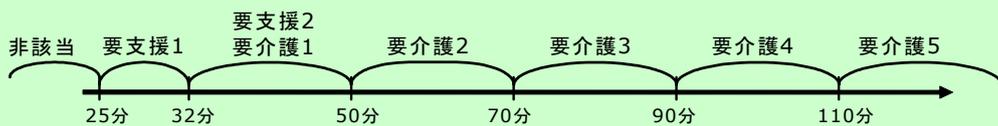


一次判定ソフト
による推計

8つの生活場面毎の
介助時間の推計値の合計

- 食事の介助時間
- 移動の介助時間
- 排泄の介助時間
- 清潔保持の介助時間
- 間接の介助時間
- BPSDの介助時間
- 機能訓練の介助時間
- 医療関連の介助時間

要介護認定等基準時間



1. 一次判定結果 (この分数は、実際のケア時間を示すものではない)

一次判定結果 : 要介護1
要介護認定等基準時間 : 40.8分

25 32 50 70 90 110 (分)

食事	移動	移動	清潔保持	間接	BPSD関連	機能訓練	医療関連	認知症加算
3.4	2.0	2.0	6.0	10.9	6.2	6.1	4.2	0.0

2. 認定調査項目

項目	調査結果
第1群 身体機能・起居動作	ある ある
第2群 生活機能	つかまれば可 つかまれば可 自分で支えれば可 支えが必要 つかまれば可 つかまれば可 支えが必要
第3群 認知機能	
第4群 精神・行動障害	
第5群 社会生活への適応	一部介助 一部介助 特別な場合以外可

3. 中間評価項目得点

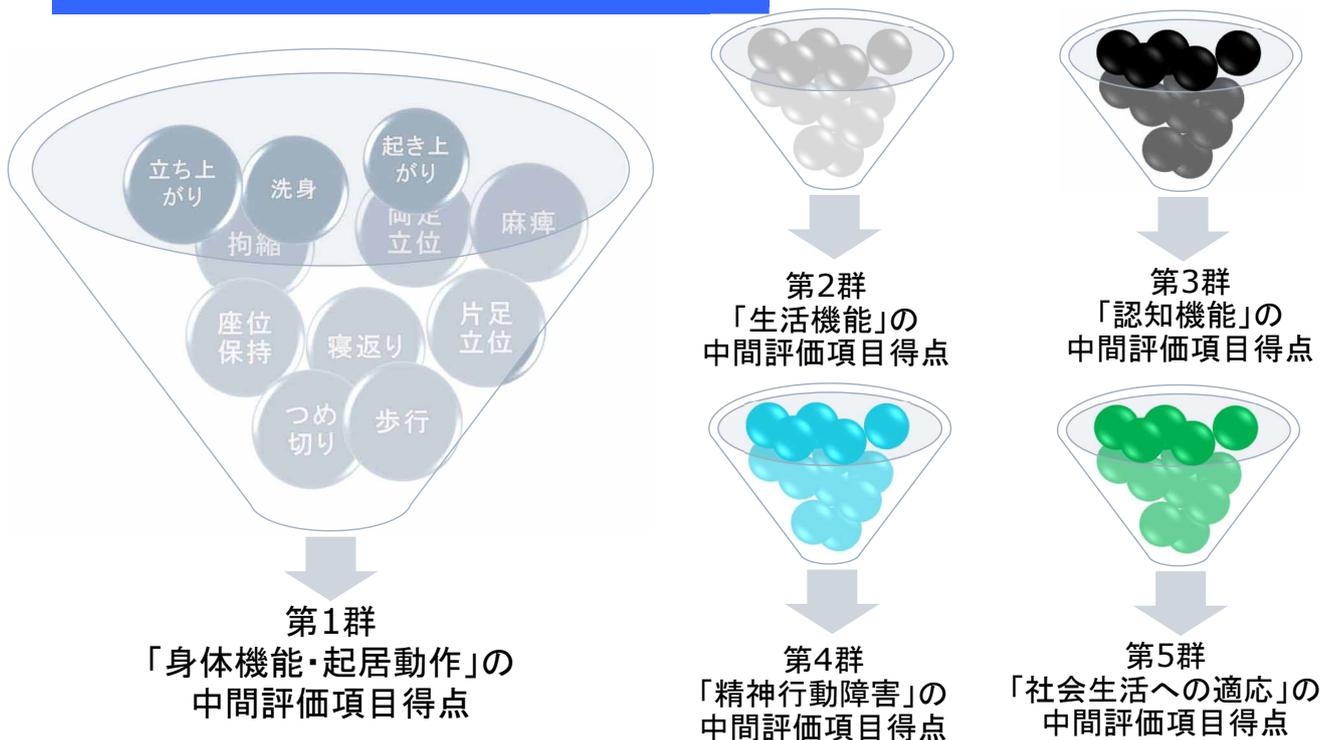
第1群	第2群	第3群	第4群	第5群
82.1	100.0	100.0	92.6	48.4

4. 日常生活自立度
障害高齢者自立度 : J2
認知症高齢者自立度 : I

5. 認知機能・状態の安定性の評価結果
認知症高齢者の日常生活自立度
認定調査結果 : I
主治医意見書 : IIa
認知症自立度II以上の蓋然性 : 81.9%
状態の安定性 : 安定
給付区分 : 介護給付

6. 現在のサービス利用状況(なし)

中間評価項目得点が持つ意味



中間評価項目得点は、認定調査によって把握された心身の状況に基づいて、それぞれ異なる機能や状態の良し悪しを100点満点で総合的に評価するもの

中間評価項目得点の算出

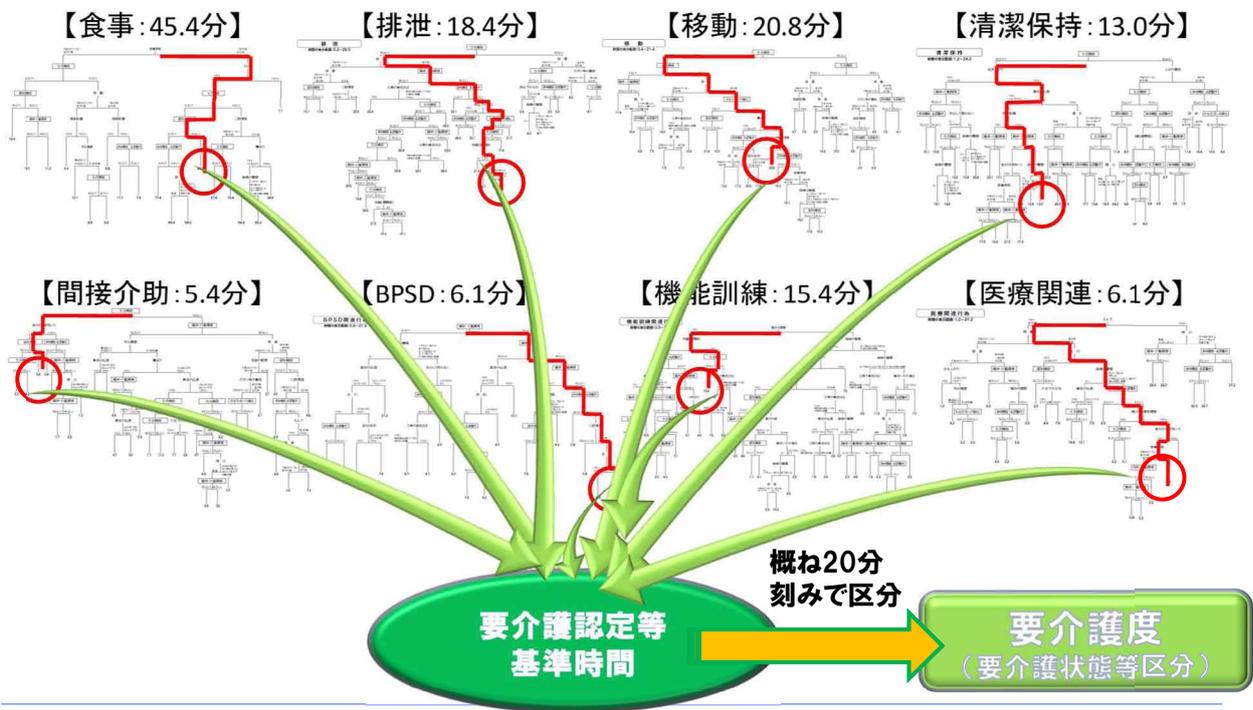
合計=100点 合計=0点

2 生活機能	移乗	介助されていない	9.1	見守り等	6.9	一部介助	3.5	全介助	0
	移動	介助されていない	8.1	見守り等	6.4	一部介助	3.7	全介助	0
	えん下	できる	10.2	見守り等	7.2	できない	0		
	食事摂取	介助されていない	9.8	見守り等	6.8	一部介助	4.6	全介助	0
	排尿	介助されていない	7.2	見守り等	5.9	一部介助	5.1	全介助	0
	排便	介助されていない	7.2	見守り等	5.7	一部介助	4.9	全介助	0
	口腔清潔	介助されていない	9.3	一部介助	5.2	全介助	0		
	洗顔	介助されていない	9.0	一部介助	5.1	全介助	0		
	整髪	介助されていない	7.9	一部介助	4.1	全介助	0		
	上衣の着脱	介助されていない	9.4	見守り等	8.0	一部介助	5.7	全介助	0
	ズボン等の着脱	介助されていない	8.7	見守り等	7.3	一部介助	5.4	全介助	0
	外出頻度	週1回以上	4.1	月1回以上	3.4	月1回未満	0		

合計点数=「第2群:生活機能」の中間評価項目得点
「生活機能」を100点満点に換算すると、どのくらいか?

樹形モデルによる介助時間の推計と 要介護度の判定

各「行為区分毎の時間」を合計すると、「要介護認定等基準時間(基準時間)」に。



MEMO

3 一次判定ソフトの構造

一次判定ソフトの設計に用いられたデータ

- 平成21年度から使用されている要介護認定等基準時間の作成にあたっては、平成19年に特養・老健等の施設に入所している高齢者約3,500人を対象に調査を実施。

心身の状態:「状態像」

～高齢者の心身の状態調査～

- 調査対象高齢者全員に対し、要介護認定調査を基礎として作成した調査票による調査を実施
- 1分間タイムスタディ調査が行われていない日程で、各施設の職員が実施

介護の時間:「要介護認定等基準時間」

～1分間タイムスタディ調査～

- 調査対象の高齢者に対するサービスを48時間記録
- 調査対象高齢者にサービスを提供する職員全員に一人ずつ調査員がつき、職員が行うサービスの内容を1分毎に記録

「樹形モデル」による
関係性の分析

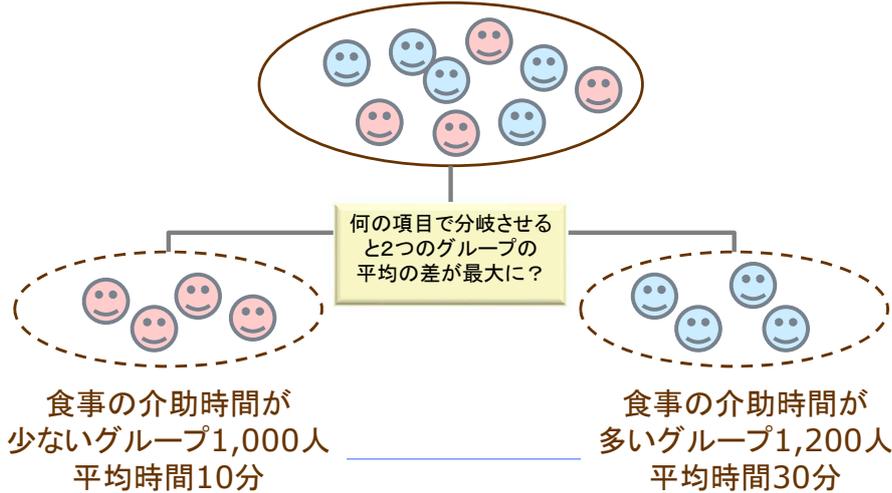
樹形モデルによる「心身の状態」と「介護の時間」の分析

※本資料で示された人数や時間は、ロジックをわかりやすく理解するために挿入したものであり、実際のタイムスタディデータとは異なる。

- 調査対象者を「心身の状態」の調査項目の選択肢によって、2つのグループに分類する。
- この分類を74項目及び中間評価項目得点で網羅的に行った結果、最も効果的に介助時間が少ないグループと多いグループに分かれる項目を分岐として設定する(設定は、統計的に行われるものであり、人為的に分岐項目を設定するわけではない)。

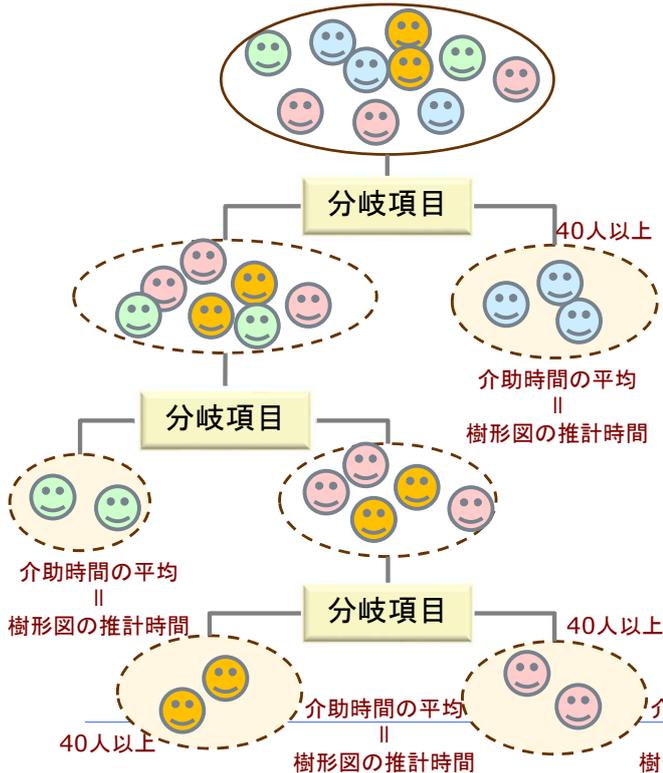
例)「食事」の介助時間

3,500人の調査対象者のうち食事に介助時間が発生している対象者



樹形モデルによる「心身の状態」と「介護の時間」の分析

3,500人の調査対象者のうち、介助時間が発生している対象者



- 分岐を繰り返すことで、樹形図が作成される。
- グループの人数が40人を下回る前に分岐を終了する。
- 末端グループに属する高齢者の介助時間の平均が、樹形図の推計時間＝行為区分毎の介助時間となる。

「介護の時間」に大きく影響する項目ほど、上位の分岐に位置する。

4 一次判定ソフトの演習

手計算で一次判定を行ってみましょう

1. 中間評価項目得点を算出
(審査会委員テキスト43ページ参照)
2. 樹形図により、8つの生活場面毎の介助時間を推計して合計
(審査会委員テキスト53～60ページ参照)
3. 特別な医療の時間、認知症高齢者のケア時間を加算
(審査会委員テキスト42ページ参照)
4. 要介護状態区分を参照し、要介護度を判定

ケースAについては、「1-5座位保持」を「できる」から「支えてもらえばできる」に修正して、再度判定
(時間が変化するの、「移動」「清潔保持」のみ)

取扱注意

介護認定審査会資料

一次判定ソフトの基本的な構造
(樹形モデル)

【演習】 B

合議体番号： 000001 No. 2

被保険者区分： 第1号被保険者 年齢： 90歳 性別： 男
申請区分： 区分変更申請 前回要介護度： 要介護3

現在の状況： 医療機関（療養病床以外）
前回認定有効期間： 12月間

1 一次判定等

(この分数は、実際のケア時間を示すものではない)

一次判定結果： 25

要介護認定等基準時間： 25分

25 32 50 70 90 110 (分)

非	支	支	介	介	介	介	介
	1	2	1	2	3	4	5

食事	排泄	移動	清潔保持	間接	BPSD関連	機能訓練	医療関連	認知症加算
	21.5	7.3	15.6	1.3	5.8	7.0		0.0

※「食事」「医療関連」を除く基準時間の合計=58.5分

警告コード：

3 中間評価項目得点

第1群	第2群	第3群	第4群	第5群
14.7		23.6	100.0	6.1

4 日常生活自立度

障害高齢者自立度： B2
認知症高齢者自立度： IV

5 認知機能・状態の安定性の評価結果

認知症高齢者の日常生活自立度
認定調査結果： IV
主治医意見書： III a
認知症自立度Ⅱ以上の蓋然性：
状態の安定性： 不安定
給付区分： 介護給付

6 現在のサービス利用状況(介護給付)

訪問介護(ホームヘルプサービス)	: 0回/月
訪問入浴介護	: 0回/月
訪問看護	: 0回/月
訪問リハビリテーション	: 0回/月
居宅療養管理指導	: 0回/月
通所介護(デイサービス)	: 0回/月
通所リハビリテーション	: 0回/月
短期入所生活介護(ショートステイ)	: 0日/月
短期入所療養介護	: 0日/月
特定施設入居者生活介護	: 0日/月
福祉用具貸与	: 0品目
特定福祉用具販売	: 0品目/6月間
住宅改修	: なし
夜間対応型訪問介護	: 0日/月
認知症対応型通所介護	: 0日/月
小規模多機能型居宅介護	: 0日/月
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	: 0日/月
地域密着型特定施設入居者生活介護	: 0日/月
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	: 0日/月

2 認定調査項目

	調査結果	前回結果
第1群 身体機能・起居動作		
1. 麻痺(左-上肢) (右-上肢) (左-下肢) (右-下肢) (その他)	ある ある	-
2. 拘縮(肩関節) (股関節) (膝関節) (その他)	ある	-
3. 寝返り	できない	-
4. 起き上がり	できない	-
5. 座位保持	支えが必要	-
6. 両足での立位	できない	-
7. 歩行	できない	-
8. 立ち上がり	できない	-
9. 片足での立位	できない	-
10. 洗身	全介助	-
11. つめ切り	全介助	-
12. 視力	判断不能	-
13. 聴力	判断不能	-
第2群 生活機能		
1. 移乗	全介助	-
2. 移動	全介助	-
3. えん下	できない	-
4. 食事摂取	全介助	-
5. 排尿	全介助	-
6. 排便	全介助	-
7. 口腔清潔	全介助	-
8. 洗顔	全介助	-
9. 整髪	全介助	-
10. 上衣の着脱	全介助	-
11. ズボン等の着脱	全介助	-
12. 外出頻度	月1回未満	-
第3群 認知機能		
1. 意思の伝達	ほとんど不可	-
2. 毎日の日課を理解	できない	-
3. 生年月日をいう	できない	-
4. 短期記憶	できない	-
5. 自分の名前をいう	できない	-
6. 今の季節を理解	できない	-
7. 場所の理解	できない	-
8. 徘徊	できない	-
9. 外出して戻れない	できない	-
第4群 精神・行動障害		
1. 被害的		-
2. 作話		-
3. 感情が不安定		-
4. 昼夜逆転		-
5. 同じ話をする		-
6. 大声を出す		-
7. 介護に抵抗		-
8. 落ち着きなし		-
9. 一人で出たがる		-
10. 収集癖		-
11. 物や衣類を壊す		-
12. ひどい物忘れ		-
13. 独り言・独り笑い		-
14. 自分勝手に行動する		-
15. 話がまとまらない		-
第5群 社会生活への適応		
1. 薬の内服	全介助	-
2. 金銭の管理	全介助	-
3. 日常の意思決定	できない	-
4. 集団への不適応		-
5. 買い物	全介助	-
6. 簡単な調理	全介助	-

<特別な医療>

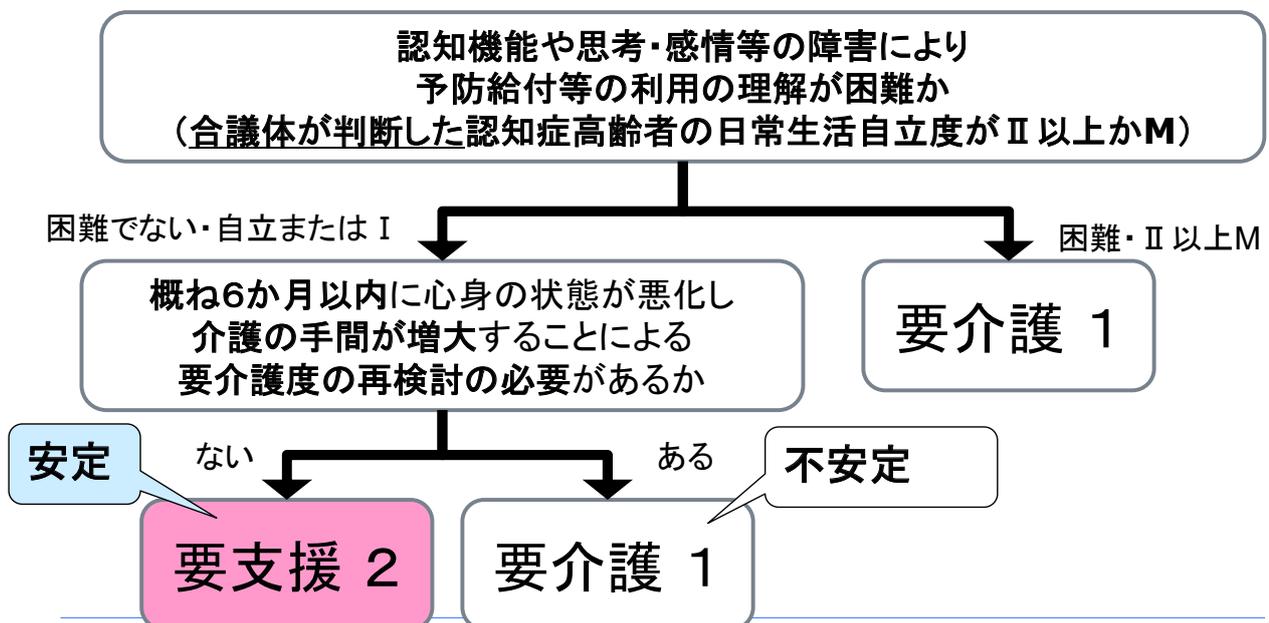
点滴の管理	: 気管切開の処置	: -
中心静脈栄養	: 疼痛の看護	: -
透析	: 経管栄養	: ある
ストーマの処置	: モニター測定	: -
酸素療法	: じょくそうの処置	: -
レスピレーター	: カテーテル	: -

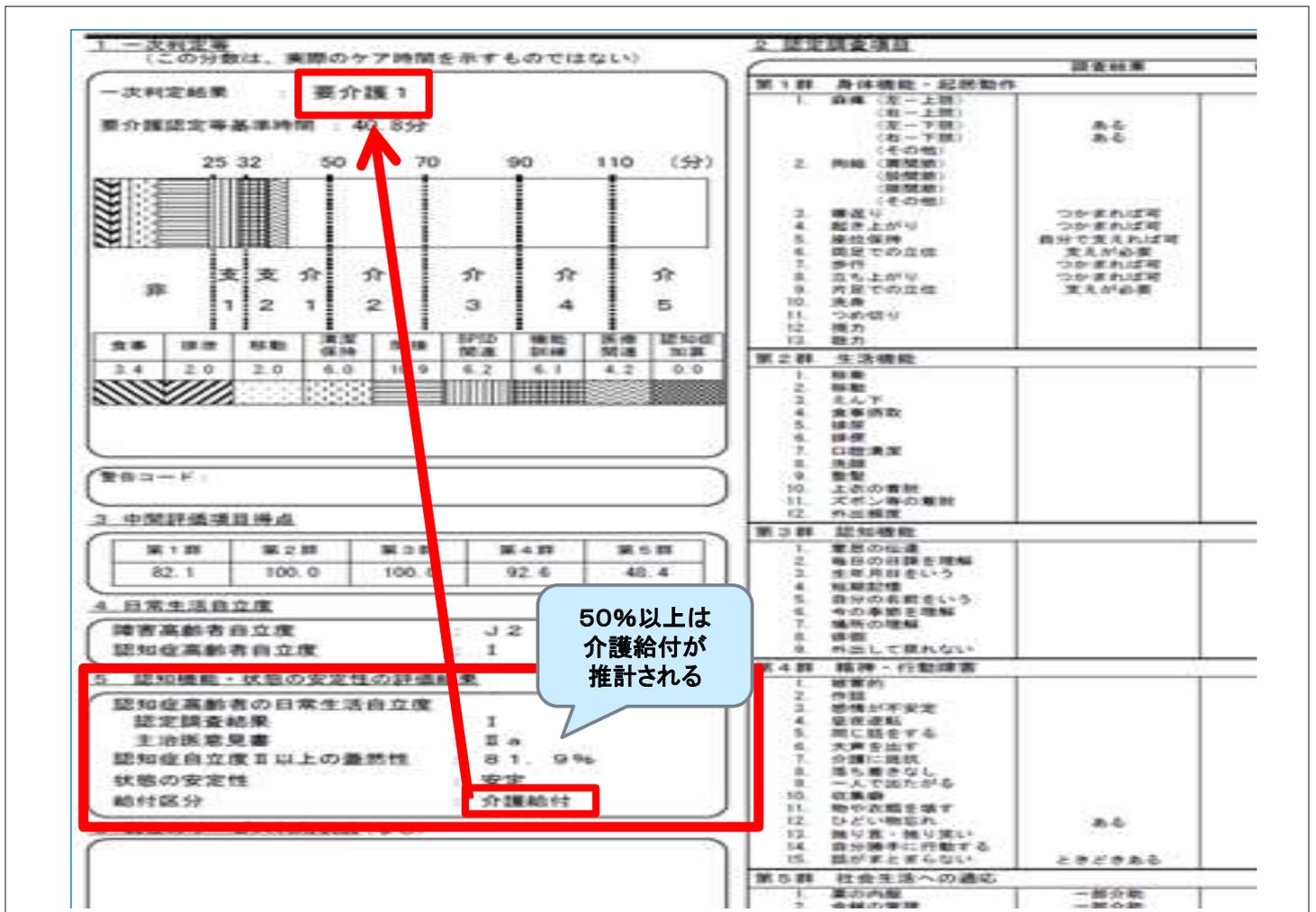
要介護度は、「要介護認定等基準時間」で決まる

要介護認定等基準時間	要介護度
25分未満	非該当
25分以上32分未満	要支援1
32分以上50分未満	要支援2／要介護1
50分以上70分未満	要介護2
70分以上90分未満	要介護3
90分以上110分未満	要介護4
110分以上	要介護5

要介護認定等基準時間が 32分以上50分未満の評価結果の表示

要支援2・要介護1の振り分け方 <介護認定審査会委員テキストP28>





要介護認定等基準時間が 32分以上50分未満の評価結果の表示

認知症高齢者の日常生活自立度

認定調査結果 : I
主治医意見書 : II a
認知症自立度II以上の蓋然性 : **81.9%**

状態の安定性 : 安定
給付区分 : 介護給付

認知症加算ロジック

審査会委員テキスト
P46

- 『要介護認定等基準時間』
70分未満(要介護2まで)
かつ..
- 『認知症高齢者自立度』
Ⅲ または Ⅳ または M
かつ..
- 『障害高齢者の日常生活自立度』
自立 または J または A

の者については
スコア表に進む

運動能力が低下していない 認知症高齢者のケア時間

「認知症加算」

一次判定結果 : 要介護1 → 要介護2
要介護認定等基準時間 : 46.3分 + 19.0分 = 65.3分

食事	排泄	移動	清潔保持	間接生活援助	BPSD関連	機能訓練	医療関連	認知症加算
10.1	0.2	2.0	6.7	8.0	16.1	2.2	1.0	19.0

運動能力が低下していない 認知症高齢者のケア時間

「認知症加算」

一次判定結果 : 要介護1 → 要介護3
要介護認定等基準時間 : 46.3分(+39.0分=85.3分)

食事	排泄	移動	清潔保持	間接生活援助	BPSD関連	機能訓練	医療関連	認知症加算
10.1	0.2	2.0	6.7	8.0	16.1	2.2	1.0	39.0

一次判定ソフト 樹形モデルを習得する意義について

- 認定調査によるチェックが基準時間に影響していく構造を理解し、定義に基づく正確な調査を行うことの重要性を改めて認識いただく。
- 審査会資料の読み方を習得する

適正化プロセス記録シート

課題	課題への対応策	
①認定調査 ②主治医意見書 ③審査手順 ④事務局 ⑤その他	課題の原因 及び 今までの取組	
	取組の成果 及び 残されている課題	今後、適正化に向けた更なる取組

memo

能力向上研修会のカリキュラム

- | | |
|---|---|
| <p>① 講義 能力向上研修のゴール</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 目指すべきゴール ■ 適正化プロセス記録シートの確認 ■ イントロダクション | <p>④ 講義 認定調査の基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 3つの評価軸の考え方 ■ 基本調査の選択における留意点 ■ 基本調査の選択の正しい考え方 ■ 初任者向けツールの活用 |
| <p>② 講義 演習 一次判定ソフトの構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 一次判定ソフトのロジック ■ 手計算による基準時間の算出 | <p>⑤ 演習 審査会委員の立場から検討する
特記事項の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 特記事項の内容検討 |
| <p>③ 講義 介護認定審査会の手順とポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 認定調査と審査会の関係性 ■ 審査会における特記事項の役割 | <p>⑥ 講義 演習 認定調査の適正化プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 適正化に向けた取組方法の例 ■ 課題整理、適正化プランニング |
| | <p>⑦ 講義 演習 業務分析データの解釈</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 業務分析データの読み方 ■ テータ例の解釈 |